

日時：2019年1月17日（木）17：10～17：55

場所：しんらん交流館（京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地）

参加者：環境首都創造ネットワーク会員

1) 環境自治体会議と環境首都創造ネットワークが統合するかしないか

枚本から資料の説明

古川) 多治見市としては2つに分かれている必要はない。ぜひ統合して具体的なうごきを基礎自治体に展開していくという意味で賛成。

松下) 基本的には統合に賛成。折角の機会なのでブランディングして新しい会員が増えることを考えてほしい。統合のメリットが最大限発揮できるような統合の方法を探してほしい。

田浦) $1 + 1 = 1.5$ くらいになっている。それが2, 3になるような統合、現会員以外の自治体に波及できる活動になってほしい。

白井) 大きな目標を掲げてそれに有志が集まるようなものにしたい。

古川) SDGsの実現は企業を除いては成り立たない。企業に積極的な三角を求めてはどうか。

枚本) 企業会員については十分検討できていないので検討すべき。

牧野) 環境自治体会議は歴史的に果たしてきた役割は大きい。創造ネットワークもコンテストを通じて優良事例を広めてきた。しかし現在は将来が先細りになっている。

片山) メンバーが高齢化して若い人の参加がない。なんとか市民全体で支えたい。統合に賛成。

松本) 統合に賛成。風力の協議会がある。そこにも企業の加盟が求められている。企業の参画もあってよい。

小澤) 昨年8月の環境自治体会議幹事会では、統合のメリットが見いだせないということになった。経費節減にならない。大きくなれば更に経営が厳しくなる。新しい魅力が具体的に見えてこない。そのアイデアがほしい。

松下) ひとつはSDGsがある。

枚本) ワーキンググループを作って検討しては。

白井) 人材開発を実践、サポートができれば。

松原) 国際的な自治体ネットワークとの連携を探っていくべき。

嘉田) 舞台は地球規模。若い人の人材育成を含め、国際、地球規模で検討すべき。自治体が直接国際的な連携していくことに賛成。

牧野) 両方加入している自治体として統合のメリットがあると考えている。

2) 次年度のフォーラムについて

京都で開催する

3) 情報提供

環境自治体会議全国会議 東京で5月に開催予定

1. 環境自治体会議との連携について

松下) 統合後の組織のブランディングができれば良い。

白井) 統合後の組織が目指す目標があれば良い。

例えば、20●●年に自治体数を●●にするなど。

古川) 企業の参画をお願いしたい。

牧野) 古川さん、牧野、久保田さんで話してきたこととして、どういう形で広げていくか、ということがある。

今の話のとおり、企業や金融機関も参画も考えられる。

両組織の先細りをどう打開するか。そして、国に対して何ができるか、をやるべきである。

片山) 高齢化してきており、力を結集して中井さん(環境省)に応えていくべきである。

松本) 統合に賛成。統合して大きな力をつける必要がある。

企業については、全国風サミットの例だが、オブザーバーとして来てもらっているということもある。

中井さんが言われたことをやっていくには、企業もあって良い。

小澤) 環境自治体会議の昨年8月の幹事会では、統合メリットがあまり見い出せないという話が出た。

新しい組織をどうマネジメントするか。

1+1が2や3となる、シナジーを生むような統合メリットを示したい。

そのための意見が欲しい。

松下) SDGs のような展開をしていくことが考えられる。

白井) 人材育成も考えられる。

地域環境コーディネーターの実践を共有していくなど。

実践しながら、サポートし合うことが考えられる。

松原) 国際的なネットワークとの連携を探ることも考えられる。

自然エネルギー100%のビジョンが取り入れられれば、世界とのネットワーキングも可能である。

嘉田) SDGs、地球規模、若い人の人材育成は大事である。

企業を含めて動いていくことに賛成である。

枚本) 首長誓約の提案もある。

牧野) 小澤さんに確認だが、環境自治体会議では、本当にメリットがないという話だったか？

小澤) まだ、今のような資料までは出来ていない、不十分な情報のもとでの話ではあったが。

牧野) 環境自治体会議の強みは、全国の自治体を網羅して、まずは集まりましょう、という入口としての役割を果たしてきたが、

今は、その環が縮小してきている。

この問題をどう考えているか。

小澤) まだ幹事会で、十分ではない情報のもとでの話である。

環境自治体会議は自治体みの組織のため、意思決定が早い、大きくなってどうなるか。

統合しない場合、組織がどうなっていくかまでは検討できていない。

原) 両組織の性格が少し違うことが、環境首都創造ネットワークは、自治体とのパートナーシップでやってきたのでこちらは対応できるが、

環境自治体会議が、どう意思決定できるかは少し心配である。

片山) 環境自治体会議は、昔は住民の環境意識を高めることを目指していたが、今はそういう状況でない。

全国大会を我がまちに、と言わない人が、そう発言することもどうかと思う。

枚本) うちも環境首都創造フォーラムの開催自治体が決まっていない。

力を付けないといけませんが、方向性は統合する、ということで良いか。課題も示しつつで。

牧野) 両組織に入っている3自治体(飯田市、多治見市、ニセコ町)と一緒にすべきでは、と言っていることを伝えて欲しい。

2. 2019年度環境首都創造フォーラム開催地と開催時期について

枚本) 秋にしたいと思っているが、助成金が切れるので、少し小さくなる。

牧野) 秋は避けたい。

枚本) 1月は雪の影響が心配になる。

来年もう1度京都で開催することとする。

3. 環境自治体会議全国大会について

5/20-21に東京で開催予定である。